

報道関係者各位
プレスリリース

2026年6月10日
株式会社タカミヤ

タカミヤ、農業の未来市場を共創する実証型イベント
「TAP EXPO 2026」を開催決定
～“農業版シリコンバレー”を目指し、農業課題の解決に向けた共創を促進～

足場をはじめとする建設業界のプラットフォームとして、業界課題に革新的なソリューションを創造しつづける株式会社タカミヤ（以下タカミヤ、大阪本社：大阪市北区、東京本社：東京都中央区、代表取締役会長兼社長：高宮一雅）は、2026年10月29日（木）～11月1日（日）の4日間、埼玉県羽生市の「TAKAMIYA AGRIBUSINESS PARK（以下、TAP）」にて、“農業版シリコンバレー”を目指し、農業の未来市場を共創する実証型イベント「TAP EXPO 2026」を開催いたします。農業分野への参入、技術実証、新規事業創出、地域課題の解決などに関心のある協賛企業・出展企業・自治体連携パートナーを募集します。



タカミヤ、農業の未来市場を共創する
実証型イベント「TAP EXPO 2026」開催

- 2026年10月29日(木)～11月1日(日)に開催決定
- 約3haの実証フィールドを活用、実際の農場を舞台に開催
- 出展企業様・自治体連携パートナー様 募集中

■ 開催背景：農業界が直面する構造課題と、産業横断型の共創の必要性

日本の農業は、担い手の減少や高齢化、食料安全保障、脱炭素、気候変動リスクへの対応など、複数の課題が重なる転換期にあります。農林水産省の統計では、基幹的農業従事者は2015年の175.7万人から2025年には103.6万人まで減少し、平均年齢は67.7歳となっています。^{*1} また、令和6年度のカロリーベース食料自給率は38%に留まっており、国内の食料生産基盤をいかに維持・強化していくかが重要な課題となっています。*

こうした課題は農業分野だけで解決できるものではなく、IoT、ロボティクス、AI、エネルギー、物流、金融、教育など、多様な領域が連携して初めて解決の糸口が見えてくる複合的な構造問題です。そのため、個別の技術やサービスを紹介するだけでなく、異業種の知見を結びつけ、現場での実証から導入までを支援する産業横断型の仕組みが求められています。

(出典) *1 : 農林水産省「[農業労働力に関する統計](#)」 *2 : 農林水産省「[令和6年度食料自給率を公表します](#)」

■ TAPとは : 実証型農業イノベーション拠点

TAKAMIYA AGRIBUSINESS PARK (TAP) は、農業界の課題解決に向け、企業・自治体・研究機関・教育機関・地域が連携する実証型農業イノベーション拠点です。

農場、研究施設、展示施設のいずれかにとどまるものではなく、異なる業種・技術・知見が集まり、現場での検証を通じて新たな価値を生み出す産業横断型のプラットフォームです。約3ha、30,000㎡に及ぶ実証フィールドを基盤に、農業技術やサービスの研究・検証から、導入・事業化までを一体で進める実証・事業化基盤として運営しています。同施設は「研究と実装を結ぶ、実証型農業イノベーション拠点」と位置づけられています。

AI、ロボティクス、エネルギー、物流、建設、食品、金融、教育、研究機関、自治体など、多様な分野の知見を結びつけることで、農業界の革新的なソリューションが集積し、新たな事業や技術の創出につながる“農業版シリコンバレー”を目指しています。



■ 「TAP EXPO 2026」とは : TAP構想を体感し、実証共創につなげる総合農業イベント

「TAP EXPO 2026」は、“農業版シリコンバレー”を目指すTAP構想を、展示・体験・実証・交流を通じて社会へ開く総合農業イベントです。

本イベントの大きな特徴は、都市型展示会場ではなく、実際の農場を舞台に開催する点です。

農業ロボット、ドローン、AI、センサー、エネルギー、物流などの技術は、カタログやパネル展示だけでは、実際の農業現場でどのように機能するのかを十分に伝えることができません。土壌、気候、作業導線、栽培環境、運営体制など、農業現場ならではの条件の中で検証してこそ、導入可能性や課題が明確になります。

「TAP EXPO 2026」では、約3ha、30,000㎡に及ぶ実証フィールドを活用し、技術やサービスを「見せる」だけでなく、現場での実証、法人来場者との商談につなげます。さらに、農業分野に関わるプレイヤーに加え、異業種企業、自治体、スタートアップ、研究機関、地域コミュニティとの対話を通じて、導入・連携・事業創出につなげる場を目指します。

参画企業にとっては、自社の技術や取り組みを農業課題の解決という社会的文脈の中で発信し、実際のフィールドを通じて導入可能性を示すとともに、新たな事業機会や共創パートナーとの接点を創出する機会となります。



■ 協賛企業・出展企業・自治体連携パートナー募集

「TAP EXPO 2026」では、農業分野への参入、技術実証、新規事業創出、地域課題の解決などに関心のある協賛企業・出展企業・自治体連携パートナーを募集します。

本イベントへの参画を通じて、TAPを起点とした共創の輪に参加し、農業分野における新たな市場形成に関わる機会としてご活用いただけます。

募集締切：2026年8月7日（金） ※枠数に限りがあるため、定員に達し次第、募集を締め切る場合があります。

協賛・出展に関する詳細や募集要項は、「TAP EXPO 2026」公式サイトをご確認ください。

▼「TAP EXPO 2026」公式サイト

<https://expo.takamiya-tap.jp/>

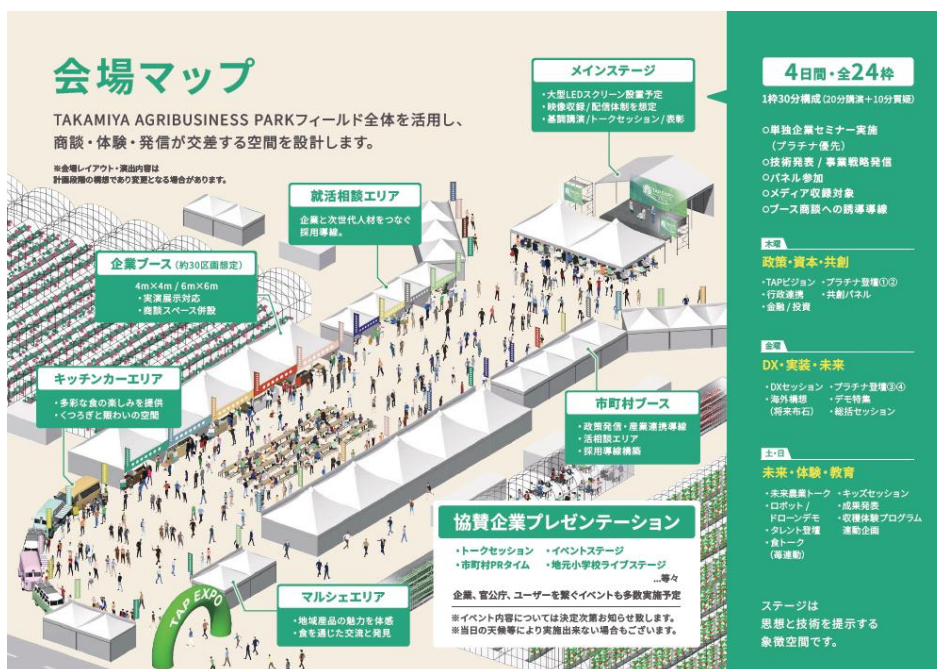
■ 実施予定コンテンツ

「TAP EXPO 2026」では、一般来場者が農業の未来を体験できるコンテンツと、企業・自治体・研究機関などが実証・連携・共創につなげられるビジネス向けコンテンツの両面を展開予定です。最先端の農業技術やソリューションを“見るだけでなく、体験し、対話し、次のアクションにつなげる場”として提供します。

【主な実施予定コンテンツ】

- ・約3haの実証フィールドを活用した先端技術展示
- ・AI・農業ロボット・スマート農業技術展示
- ・ドローン展示およびデモンストレーション
- ・収穫体験などの参加型プログラム
- ・食育コンテンツ・地域マルシェ・キッチンカーエリア
- ・企業・自治体・研究機関によるセッション
- ・異業種ネットワーキング・交流企画

農業に関心のある一般来場者から、農業分野への参入や事業拡大を検討する企業・団体まで、幅広い方々が「見て、学んで、つながる」ことのできる場を目指します。 ※実施内容は現時点の予定であり、今後変更となる場合があります。



■ 開催概要

名称：「TAP EXPO 2026」

開催日時：2026年10月29日（木）～11月1日（日）

会場：TAKAMIYA AGRIBUSINESS PARK

所在地：〒348-0013 埼玉県羽生市大字日野手新田字清右工門130-1

開催形式：現地開催

募集対象：協賛企業、出展企業、自治体連携パートナー

募集締切：2026年8月7日（金）※枠数に限りがあるため、定数に達し次第、募集を締め切る場合があります。

参加方法：入場無料予定 ※一部事前来場登録制を予定しています。

公式サイト：<https://expo.takamiya-tap.jp/>

お問い合わせ：「TAP EXPO 2026」事務局 expo@takamiya-tap.jp

■株式会社タカミヤについて

社名：株式会社タカミヤ

代表：高宮 一雅

本社所在地：大阪市北区大深町 3-1 グランフロント大阪 タワーB 27階

：東京都中央区日本橋3-10-5 オンワードパークビルディング12階

URL：<https://corp.takamiya.co/>

設立：1969年6月21日

資本金：10億 5,214万円

従業員数：752名（連結従業員数 1,351名）

事業内容：仮設機材の開発、製造、販売及びレンタル、仮設工事の計画、設計、施工

■関連サイト

TAP EXPO 2026公式サイト

<https://expo.takamiya-tap.jp/>

TAP（TAKAMIYA AGRIBUSINESS PARK）公式サイト

<https://takamiya-tap.jp/>

公式Instagram

https://www.instagram.com/takamiya_aisai/

【本件に関する問い合わせ先】

「TAP EXPO 2026」事務局 expo@takamiya-tap.jp